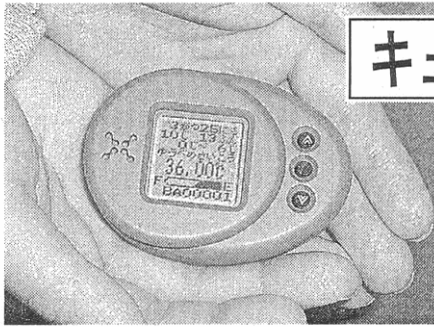


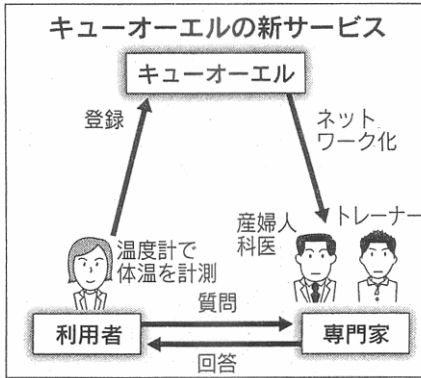
# 女性の体調、ネットで助言

## 独自体温計で産婦人科医ら回答

情報システム開発のキューオーエル(長野県上田市、宮島正子社長)は六月、独自開発した基礎体温の測れる温度計を使って女性の健康相談に応じる新サービスを始める。ネット上で体温の推移を示しながら、会員が体調について相談すると、内容に応じて産婦人科医や栄養士ら専門家が助言する。



「ランズナイト」は眠ったままでも基礎体温を測れる



利用する温度計は昨年、同社が開発した「ランズナイト」。手のひらに収まる大きさで、基礎代謝の低い、眠った状態の体温を測ることができ、パジャマなど衣服にはさんでおくだけで、十分間隔で計六時間計測する。

この温度計に表示されたQRコードを携帯電話

で読み取ると、計測した体温のデータが同社の専用サイト「ランズストーリー」に記録される。利用者はパスワードを使って、同サイトにアクセスすれば、自分の基礎体温の推移を見ることができ、体温計は一個一万二千八百円で販売している。

新サービスは六月から、このサイト内で実施する。利用者は会員登録したうえで、月経不順や不妊症、自分に合ったダイエット方法などの質問を書き込む。これに対して、キューオーエルが紹介する産婦人科医やスポーツトレーナーらの専門家が回答する。利用料は年間六千円。

新サービスの開始以外に使い勝手も改善。利用者がかかりつけ医に自分の体温のデータを見せやすくなるため、医療機関向けの専用サイト「ランズドクター」を立ち上げた。医師は同サイトに接続するだけで利用者の体調不良を確認でき、効果的な診察を後押しする。

利用者を拡大するため、個人だけでなく法人需要も掘り起こす。フィットネスクラブや化粧品メーカーなど女性を会員にもつ企業を通じて、同社の体温計やサービスを拡販する。

働く女性の増加、過剰なダイエットなどから、ストレスの増加や月経不順など女性ならではの体調不良に悩む人が増えて

いるという。厚生労働省が二〇〇〇年度に実施した調査によると、医療費や生産性の低下など月経痛に伴う経済的な損失は国内で年一兆円にのぼる。

同社の今の収入源は温度計販売と専用サイトの広告掲載料で、〇九年七月期の売上高は約一億円を見込む。サービスの拡充により「収入源を広げたい」(宮島社長)考えた。